

ご存じですか?

# 命を守る! 5段階の“警戒レベル”

木曾川や日光川などの河川が大雨などにより堤防の決壊の恐れがある場合に、「警戒レベル」を示して、市民の方々に取るべき行動を呼びかける避難情報の運用を開始しました。災害発生危険性に従って、取るべき行動を5段階で示すことにより、気象情報と避難行動との関係が明確化されました。早めの避難行動は大切な命を守る行動です。災害発生時に、市から警戒レベルが示された場合には、レベルに応じた避難行動をとりましょう。

また、災害時には、1つの手段に頼るのではなく、複数の手段によって情報を収集するよう心がけてください。その1つとして、「愛西市市民防災メール」や「SMS(ショートメール)」を配信していますので、携帯電話をお持ちの方は、登録をお願いします。



警戒レベル	情報の種類	市民のとりべき行動
5	災害発生情報	既に災害が発生しており、命を守るための最善の行動を
4	避難勧告、避難指示	災害が発生する恐れが極めて高く、速やかに立ち退き避難
3	避難準備・ 高齢者等避難開始	避難に時間のかかる方は避難を開始。 それ以外の方も避難の準備を進める
2	注意報	避難の準備を進め、避難先やルートを確認を
1	災害級の大雨が降る 恐れがあるとの予報	災害への心構えを高める

※市内でも地区によって避難情報が異なる場合がありますので、ご注意ください。

☎ 防災安全課 ☎ (55)7130



食欲の秋は文化の秋でもあります。戦前、愛知県内からもアメリカへたくさんの人々が移住しました。彼らが住んだ街の一つがウォルナッツグローブです。愛西市と似た環境で農業に従事したようすが、ウォルナッツグローブを日本語に訳すと胡桃(ワルミ)林です。

ところで、葛木港や東海広場など木曾川河川敷には、自生した胡桃の大きめに5cm程の少し尖った大きな丸い実が10個程かたまつてぶら下がって

います(写真)。市にもウォルナッツグローブがあるので。

胡桃は北半球の温帯地域に広く分布していますが、日本に自生している胡桃の大半はオニグルミという、核がゴツゴツとして非常に硬く、種子(仁)が取り出しにくい野生種です。胡桃は、紀元前7000年前から人類が食用にしていたとも言われ、日本でも縄文時代から出土例があります。現在は品種改良も進み、栄養価が高いと注目されている食材です。

欧米でも、古くから虫害に強く収量が多い品種に改良され、また、核が非常に硬く簡単には食べられないため、核を割る専用の胡桃割り器、くるみ割り人形(ナッツクラッカー)が作られました。また、胡桃の重宝で加工しやすいという木質に人気があり、高級家具などに用いられています。また、堅い核は自然素材としてアート作品の材料にもなります。

☎ 市観光協会 ☎ (55)9993

